

岡山県河道内整備実施計画の概要

背景・目的

- 近年、気候変動による豪雨災害が激甚化・頻発化しており、河川の氾濫や堤防の決壊など、県民の洪水に対する防災意識が高まる中、河道内の堆積土や樹木に対する不安は高まっている。
- 前計画（令和2（2020）年度～令和6（2024）年度）において、優先度の高い箇所から約119kmの対策を実施したが、対策が必要な箇所は依然として数多くあり、また、これまでに実施した箇所の一部では、土砂の再堆積や樹木の再繁茂も見受けられる。
- このことから、引き続き、効果的・効率的に河川の流下能力の維持・向上を図り、浸水リスクの低減を図る必要がある。

計画の概要

- 【期間】 令和7（2025）年度～令和10（2028）年度〔4か年〕
- 【取組内容】 ・優先度の高い箇所から河道内整備（河道掘削・樹木伐採）を実施する。
・これまでの成果を維持するために、堆積や樹木の繁茂が軽度の段階で、再堆積等の対策も実施する。

優先度の評価

箇所毎に影響度と重要度から優先度を評価し、優先度の高い箇所から対策を実施する。

【影響度の評価】

河道内の堆積土、支障木が流水に与える影響（阻害率）により評価

■影響度の判定

影響	影響の割合
特に大きい	阻害率が概ね30%以上の状態
大きい	阻害率が概ね15%以上の状態
小さい	阻害率が概ね15%未満の状態

【重要度の評価】

沿川の浸水リスクや背後地利用状況等により評価

■重要度の判定指標〔例〕

指標	指標の概要
浸水発生ポテンシャル	近年の浸水実績や重要水防箇所の指定状況等により判定
被害ポテンシャル	背後地の人家、防災施設等の立地状況により判定
箇所特性	市町村からの要望や有堤・掘込河道の別により判定
その他	発生土の受け入れ先の確保等により判定

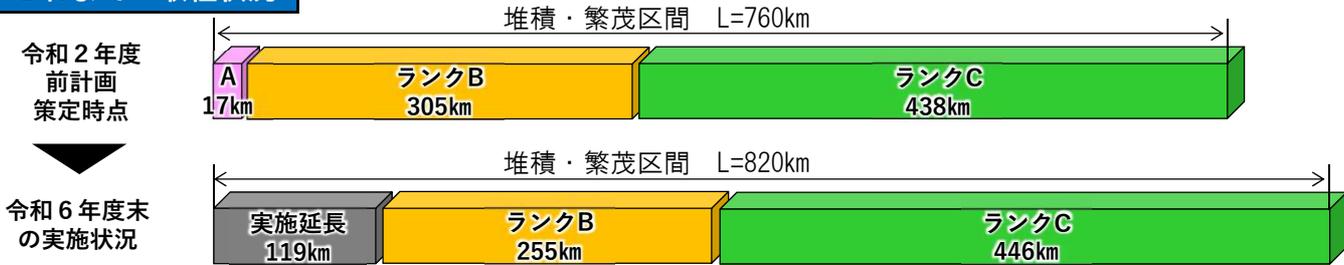


【優先度の評価】

影響度および重要度を総合的に判定し、優先度を3段階で評価する。

ランク	分類	判定の概要
A	緊急対策	優先度が特に高く緊急に対策が必要な箇所
B	要対策	優先度が高く対策が必要な箇所
C	監視	当面は経過観察する箇所

これまでの取組状況



目標

実施延長：119km（令和6年度末） → **200km（令和10年度末）**
※R7～R10の実施延長81km

